

## 滋賀県湖南市の防災イベントに参加

～ 「ぼうさいダック」とワークショップ「非常持出バックの中身を考えよう」を実施 ～

日本損害保険協会近畿支部（委員長：柿木 一宏・東京海上日動火災保険株式会社専務代表取締役）では、5月11日（日）に滋賀県湖南市で開催された防災イベントに近畿支部防災博士（※1）の増田晶子さんと近畿支部茨木職員が参加しました。ステージでは「ぼうさいダック（※2）」の実演を午前と午後の2回、実施し、ブースでは「非常持出バックの中身を考えよう」と題したワークショップを実施しました。

湖南市で「ぼうさいダック」を実施するのは初めてのことで、冒頭、茨木職員から30年前の阪神・淡路大震災の経験を話した後、カードを使いながら、地震、火事、台風、洪水、交通安全、不審者などの災害や危険から命や体を守るポーズを覚えてもらいました。火事と不審者の説明では併せて「おはしも（避難の合言葉（※3））」と「いかのおすし（子どもを犯罪から守る合言葉（※4））」の意味を話しました。

また、ブースでは、避難時に持ち出すバックの重さ（小学生：5kg、成人男性：15kg、成人女性：10kg）を視覚障害のある方などに体験していただきました。併せて、茨木職員が用意している非常持出品10品を1分間で覚えてもらい、品物の名前を書き出し、家族それぞれに他に必要な物を考えていただきました。参加者の中に阪神・淡路大震災当時、兵庫県尼崎市にお住まいの方が当時の経験を話され、「滋賀県は比較的災害に遭っていないので日頃からの備えを考えないといけないな。」、10kgの重さを背負った小学6年生の児童は「毎日背負うランドセルより重い。避難の時に背負って歩けるかな？」などの感想がありました。

ワークショップに参加していただいた方には、ぼうさい探検隊（※5）マップコンクールの募集要項と啓発チラシ（「水災への備え、本当に大丈夫ですか？」「近畿地域の住宅リフォームや損害保険に関する悪質業者とのトラブルにご注意！」）を配付し、ぼうさい探検隊への取組みの呼びかけと水災等への注意喚起を行いました。

当支部では、今後も防災博士や関係機関・団体等と連携し、各種防災教育の普及啓発に取り組んでまいります。

※1 防災博士とは…地域における安全・防災活動に対し、積極的に協力いただける方を「防災博士」として委嘱しており、近畿支部防災博士は地域のリーダーとして安全・防災活動に貢献しています。

※2 ぼうさいダック…<https://www.sonpo.or.jp/report/publish/education/0008.html>

※3 「おはしも」とは…「お」さない、「は」しらない、「し」やべらない、「も」どらない。

※4 「いかのおすし」とは…知らない人について「いか」ない、知らない人の車に「の」らない、「お」おきな声で叫ぶ、「す」ぐ逃げる、大人の人に「し」らせる。

※5 ぼうさい探検隊…<https://www.sonpo.or.jp/about/efforts/reduction/bousai/index.html>



「ぼうさいダック」を実演



非常持出バックの中身を考えよう！



非常持出バックに入れる物を書き出し中



視覚障害の方が重さを体験